

アフガニスタン 復興支援活動レポート

2001年10月～2002年12月



みなさまのご支援に
感謝を込めて

©UNICEF/AFGHANISTAN

日本のみなさまからの1,273万米ドルを含めた各国国内委員会からの支援で、
このような成果が生まれました。ユニセフへの変わらぬご支援に感謝いたします。

For every child
Health, Education, Equality, Protection
ADVANCE HUMANITY

unicef 

すごい!
こんなこと
できたんだ

2001年10月～2002年12月
アフガニスタン緊急支援要請に対して支援された総額
1億2,000万米ドル



**みなさまのご支援でこれだけの成果が
あがりました(抜粋)**

80万人が厳しい冬と干ばつを乗り切ることができました。

300万人の子が学校に通えるようになりました。

女の子の就学率が2001年の5%から2002年には30%にまで上がりました。

100校以上の小学校が修復され、337,000人の子どもたちが改築された学校に通えるようになりました。

その他345校にトイレが設置され、1,010校では安全な飲み水が提供できるようになりました。

予防接種キャンペーンにより、600万人(ポリオ)、1,000万人以上(はしか)が予防接種を受けることができました。

100万人以上が安全な飲み水を手に入れられるようになりました。

地雷注意喚起プログラムにより、アフガニスタンの国民の60%が、地雷を見つけたときの対処の仕方を知ることができました。

教育省や保健・栄養省への支援を通して、アフガニスタンの国民のニーズに合った計画作成・政策立案について能力育成をはかることができました。



©UNICEF



©UNICEF/Kent Page

アフガニスタンの子どもたちから
ダリ語、パシュトゥーン語、ペルシャ語による
「ありがとう!」メッセージと絵が届きました!

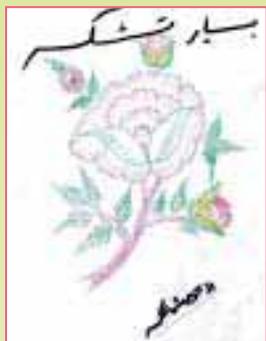
ユニセフの支援を受けたカブールの小学校の子どもたちが描いた絵です。
(ユニセフは学校を修復し、児童数の増加に合わせて臨時の教室用テントを提供しました。)



フラウ 10歳 3年生 パシュトゥーン語



ファリア 11歳 3年生 パシュトゥーン語



ベナフシャ 15歳 6年生 ダリ語



ファリア 11歳 3年生 ダリ語

ユニセフ事務所のアフガニスタン・スタッフの子どもたちが描いた絵です。彼ら・彼女たちからも「ありがとう!」が届きました



ダニヤ 5歳 ペルシャ語



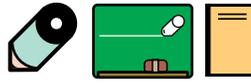
シャイール 4歳 パシュトゥーン語

子どもたちはアフガニスタンの未来です。いろいろな人生の選択肢がもてるよう、みなさまのご支援、ご協力をこれからもよろしくお願いいたします。

アフガニスタン

学校に行けるようになったよ!

子どもたちからのありがとう



みなさまのご支援により
アフガニスタンは復興への
道を歩み出すことが
できました。
これはそのご報告です。

支援総額
(1億2,000万米ドル)

日本ユニセフ協会から
12,734,950
国内委員会支援の**32%**

世界の29カ国
国内委員会から
39,530,104

(単位米ドル)



アフガニスタン 基礎データ

面積	652,225平方キロメートル(日本の約1.7倍)
人口	22,930,000人(2002年)
首都	カブール
人種	パシュトゥーン人、タジク人、ハザラ人、ウズベク人など
宗教	イスラム教
成人の識字率	男51 女21(2000年) 男40 女12(1990年)

乳児死亡率(1歳未満児の死亡率)	出生1000人当たりの人数 165
5歳未満児死亡率	出生1000人当たりの人数 257
純就学・通学率(1996年~2002年の間で存在する最新データ)	36%

*主に「世界子供白書2004」よりの抜粋
*地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

アフガニスタンの歴史

- 1919年 英国保護領より独立を達成
- 1973年 7月 共和制に移行
- 1978年 4月 軍部クーデターにより人民民主党政権が成立
- 1979年 12月 ソ連の軍事介入のもとカルマル政権成立、その後内戦が激化
- 1989年 2月 ジュネーブ合意に基づき、駐留ソ連軍が撤退を完了
- 1992年 4月 ムジャヒディン政権が成立。主導権争いにより内戦状態が続く
- 1996年 9月 94年頃から勢力を伸ばしてきたタリバンが首都カブールを制圧
- 1999年 タリバンが国土の9割を支配
- 2001年 9月11日 アメリカ同時多発テロが発生
以後、アルカイダ、タリバンに対する軍事活動が活発化する。
12月には北部同盟がタリバン支配地域を奪還。
- 12月5日 国連の呼び掛けでアフガニスタン各派の代表者会議が開催される(ボン会議)
- 12月7日 タリバン政権が南部カンダハルを放棄
- 12月11-13日 アフガニスタン復興NGO東京会議開催
- 2002年 1月21日-22日 東京でアフガニスタン復興支援国際会議
- 2002年 6月 ボン合意に基づき緊急ロヤ・ジャルガ(国民大会議)が開催され、カルザイ暫定政権議長を大統領とする移行政権が成立

外務省ホームページを参考に作成

©UNICEF/HQ01-0519/Shehzad Noorani

アフガニスタン事務所
28,800,000

+ 計約**35,000,000**

中央アジア・カザフスタン地域事務所
6,500,000

パキスタン事務所
2,400,000

ニューヨーク本部
1,800,000

(単位米ドル)

支援内容と支援額
国内委員会支援総額
37,654,815
(単位米ドル)

教育
18,554,246
総額の**53.0%**

子どもの保護
292,448

その他

母子保健 **2,728,729**
栄養 **2,406,110**
水・環境・衛生 **302,650**
出生登録 **123,643**

活動支援費
6,772,697

緊急救援
6,474,292
パキスタン事務所分
含む

この報告書は2002年12月31日
までに実施されたプログラム内容
についてのご報告です。
(各色枠の右下が実施分の総計)



©UNICEF/HQ01-0516/
Shehzad Noorani

緊急支援



©UNICEF/
Kent Page

ユニセフの緊急支援 飛行機から、船、 ロバまでもが活躍

同時多発テロがアメリカで起きたのが2001年9月11日。対テロ戦争で米軍がアフガニスタン空爆を開始したのは同年10月7日。厳しい冬を前に、ユニセフはほかの国連機関共々アフガニスタンへの人道支援を訴え、必要な物資をアフガニスタン国内に運び入れる努力を弛まなく続けました。空爆のため、一時退避を余儀なくされたユニセフの外国人スタッフは、周辺国からの支援を機軸に、トルクメニスタン、アゼルバイジャン、パキスタンから物資を送り込み、アフガニスタン側ではアフガニスタン人スタッフたちが、それらの物資を受け入れて、支援を必要とし



©UNICEF/HQ02-0031/
Roger Lemoyne



©UNICEF



©UNICEF/HQ01-0310/
Shafiqat Munir

ている子どもとその家族に、送り届けるという地道な活動が続ききました。山が多いアフガニスタンでは、物資を届けるのも一苦労。船、トラック、4駆の自動車、ロバなどを使い、略奪の恐怖と闘いながら、ありとあらゆる方法で、支援物資はそれを必要としている人たちに送り届けられたのです。

空爆は終わり、復興という長い道のりを歩みだしたアフガニスタン。その中でも、国民みんなに希望の光を与えたのが「教育(特に女子の教育)」です。子どもは、将来のアフガニスタンを担う宝だからです。

実施分(370万米ドル)

教育
18,554,246
総額の53.0%



©UNICEF/HQ02-0038/
Roger Lemoine

バック・トゥ・スクール・キャンペーン

20年の内戦と避難生活の後で、教育インフラは都市部を除いてほとんど壊滅状態にありました。子どもとその家族の生活を通常に戻すため、また、就学年齢に達している何百万人もの子どもたちの教育を早急に再開するためにユニセフは学習スペースの提供と学習資材の配布に乗り出しました。

バック・トゥ・スクール(BTS)は、ロジスティクスの面では、ユニセフが大掛かりに展開した初めての試みでした。

児童への支援 = 300万人 300万米ドル以上

通学用バッグ	@0.5	1,250,000
ノート	@0.12	19,700,000
お絵かきようノート	@0.28	445,000
色エンピツセット	@0.52	50,000
消しゴム	@0.06	100,000
エンピツ削り	@0.04	100,000
<補助教材> 学習教材 (算数・国語)		小1・311,500人分 小2・178,000人分 小3・152,400人分

教師への支援 = 6万人 38万米ドル

ペン	@0.03	460,370
エンピツ	@0.04	600,560
消しゴム	@0.04	262,912
エンピツ削り	@0.11	150,318
小黒板	@0.34	99,190
箱入りチョーク	@0.30	367,772
定規	@0.29	50,266
幾何学ボックス	@0.75	31,810
色エンピツセット	@0.53	149,000
ボックス・ファイル	@1.45	19,116
黒板用のペンキ	@1.45	300
アフガニスタンの地図	@0.59	406
世界地図	@0.48	406
穴あけ	@2.19	406
ホチキス	@1.42	406
ホチキスの針	@0.11	2,208
A4の紙(1セット)	@3.03	114
追加分の穴あけ、ホチキス、針、黒板用ペンキ		1,077
メモ用紙	@0.40	12,700

左の数値(@)は単価ですが、製造した国などにより変動がありますので、あくまでも目安です。右側の数値は個数やセット数です。

学校の修復と建設

国内委員会の支援金より **840,051米ドル**を使用

対象	93校	
受益者	児童61,000人	
地域	学校数(校)	子どもの数(人)
ジャララバード	35	22,336
マザール	12	7,217
ファイザバード	12	6,000
ヘラート	15	10,573
カンダハル	11	9,100
カブール	8	6,575
合計	93	61,801

学校への支援 500万米ドル

スクール・イン・ア・ボックス (898,240人の児童と教師用の教育キット)	11,228	
黒板	17,796	木製パレット 500
箱入りチョーク	122,176	ペン 64,400
小黒板	110,583	エンピツ 64,400
児童の出席簿	44,400	
臨時の教室用テント	8,500	

国内委員会の支援金より **559,600米ドル**を使用

クラス用テント	@500	1,000
トイレ用テント	@25	1,500
クラス用テントに敷く床マット	@8.90	4,000

バック・トゥ・スクールの促進用、活動支援費用 220万米ドル

教育省への支援

L字型机	125	事務机と椅子	250
椅子	250	小テーブル	75
棚	125	戸棚	50
卓上ランプ	125	キャビネット(金属製)	25
扇風機	50	車	10

- ・州レベルの教育担当官の研修と支援(BTSを実施、モニターするため、またそれに続く教育教材の配布のため)
- ・教育システム(EMIS)のための技術支援
- ・学校の修復と建設を行うにあたっての手順と基準を確立するための技術支援



教育省の修復も支援

実施分(1,360万米ドル)

子どもの保護
292,448



©UNICEF/
Kent Page

内戦時や混乱時あるいはその直後ほど、子どもには保護が必要です。避難民への保護、施設にいる子どもたちの保護、法律を犯した子どもたちの扱いなどについて、きめ細かな配慮が必要です。

地雷注意喚起教育 3,200校で研修を実施

ラジオ・テレビの番組制作	
ポスター	40,000枚
布製のスクリーン	20,000枚
(2,000校、避難民登録所などに提供)	

少年・少女の司法

現況調査、司法省とともに、非拘束型の施設
の設置を検討
少年・少女の司法についての専門家養成

心理社会的支援(心のケア)

社会保護と心理社会支援の専門家を養成

子どもの兵士の動員解除と

社会復帰

子どもの保護についての

技術的支援

©UNICEF/HQ01-0508/
Shehzad Noorani

実施分(14万米ドル)

活動支援費
6,772,697



©UNICEF/
Kent Page

支援を実施するには、いろいろな間接費がかかります。物資ひとつを送るにも輸送費、燃料費、人件費がかかります。物を置いておく倉庫やスペースも必要です。輸出入の書類を作ったり、請求書、領収書を発行するための事務費用も必要です。以下がその費用でした。

IT & コミュニケーション(ハード)	722,884
輸送費(車の提供とメンテナンス、車代)	287,466
発電機と燃料代金	74,814
事務所の備品・機器	682,739
文具、雑貨	186,204
臨時の建物、コンテナ	494,201
事務所の敷地代(家賃、改装など)	390,907
事務所費用(管理代金、両替手数料など)	370,389
サプライ&ロジスティクス施設(倉庫)の設置	125,040
その他、人件費、交通費など	

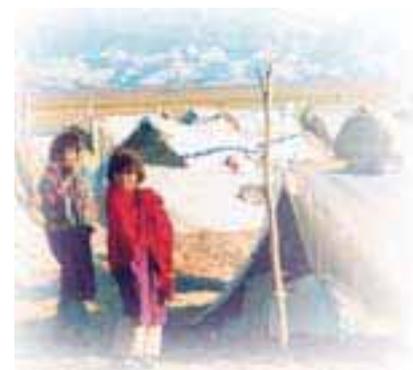
実施分(590万米ドル)



©UNICEF



©UNICEF



©UNICEF/Edward
Carwardine

ユニセフが目指したこと

国づくりは子どもの教育から



©UNICEF/HQ03-0098/Shehzad Noorani

23年にわたる内戦と避難生活が終わりをつげたとき、アフガニスタン（都市部を除いて）でのインフラ（教育施設・設備・教材等）は壊滅状態にありました。子どもたち、そしてその家族たちに通常の生活と安心感をもたらすため、そして、就学年齢児の何百万もの子どもたちの教育を再開するために、ユニセフはアフガニスタン中に学習の場と学習資材を提供することにしました。

バック・トゥ・スクール（BTS）キャンペーンは、ユニセフが可能な限りの物流技術と知識を駆使して展開した初めての大規模教育キャンペーンです。ユニセフはこのキャンペーンを通して、298万の小学生に（中等学校の生徒にも30万人分）基礎的文具を提供、パキスタン、トルコ、イラン、コペンハーゲンから児童用キットや教師用キットを運び入れましたが、これらのキットは、子どもたちのニーズに合わせたものになっています。

子どもたちを学校に通わせるかどうかを決めるのは、結局は親たちです。そのため、ユニセフは、教育省と共に、教育の大切さをコミュニティや親、家族たちに訴える啓発活動を推進し、学校再開についての情報とBTSキャンペーンについて、広く伝える努力をしました。ラジオ、印刷物、宗教指導者とのミーティング、コミュニティのリーダー、地元の行政官、保健員、両親、いろいろな人たちと会い、説得し、教育の意義を広めたのです。通りでは演劇グループやアーティストが大道芸を広げながら、BTSキャンペーンの意義を人々に訴えました。コミュニティには大型スピーカーやメガフォンなどが提供され、子ども（特に女の子）の学校への登録推進が呼びかけられました。

また、ユニセフは教育省が学習資材等の配布を円滑に行えるよう支援し、2002年3月23日の新学期開始日までに、学校に届ける努力をしました。アフガニスタン中の学校という学校に学習資材を届けるために、ロバまでもが動員され、また、教育省のスタッフを支援するために、緊急支援のロジスティクス（物流）の知識を持ったユニセフ・スタッフや臨時スタッフを投入しました。それと同時に、教育省側では6つの地域ワーキング・グループ、62の地元行政官、330の地区行政官がBTSキャンペーンに関わり、政府側の人材に対する能力育成（研修）も図られ、今後のアフガニスタンの教育という長期的な視野も考慮に入れられて、キャンペーンは実施されました。

この2002年のBTSキャンペーンの結果、女の子の就学は10倍に増加、男の子の就学も3分の2増加しました。

アフガニスタン 学校に戻れてうれしいわ！

2002年3月23日、アフガニスタンの子どもたちが待ち焦がれた新学期が始まりました。紛争、干ばつによる食料不足、過酷な状況下での避難生活。笑顔を取り戻していた子どもたちに、この日、とびきりの笑顔が戻ってきました。新学期のこの日、小学校に登校した子どもは178万人。約3,000の小学校が無事に子どもたちを迎え入れることができ、ユニセフとそのパートナー機関のスタッフは大きく胸を撫でおろしたものです。

ここにたどり着くまでが一苦労でした。校舎の多くが破壊され、教員の数は圧倒的に不足し、教科書も学用品もない状態で、学校をどう再開したらいいのか…。ユニセフは、子どもたちの正常な生活を取り戻す大事な手段となる学校再開に向けて、教育の専門家を中心にプロジェクトチームを発足させ、詳細な現地調査をもとに、教育省やパートナーと共に「バック・トゥ・スクール（学校に戻ろう）」キャンペーンを開始したのでした。新学期開始に教科書や黒板、鉛筆やノートなどの教育資材約7,000トン国内中の学校に届け、各地で教員研修を実施、100校以上の校舎を修復。「学校に行けるようになってうれしい。これからはちゃんとした勉強ができるわ。私も友達も大喜びなの」新しい教材をもらった首都カブールに住むミーナは、このように喜びを語っていました。アフガニスタン復興への大事な道を切り開く支援の多くが日本のみなさまからの募金によるものでした。

自立に向かう子どもたち

「これは車を洗う仕事よりいいよ」ラヒムは顔を上げることなく、せっせと靴作りに励んでいます。「今はみんなが同じような仕事をしているから、生活が成り立たない。最初は、自信がなかったけれど、今は大丈夫さ！ そのうち仲間で商売を始めようと思っているんだ」

ここはNGOが運営しているカブール市内のセンターです。職業訓練と教育の両方を15歳～18歳の若者たちに提供しています。2棟あるこのセンターには500人ほどの若者が集まり、1日4時間、国の教育カリキュラムに則った教育を受け、7つの職業訓練（鍍金、大工、靴作り、カーペット織り、縫製、石工仕事、皮工芸）のうち好きなものをひとつ選択して学んでいます。「国の未来に貢献している実感が湧く。でも、できればこれをもっと拡大して、銃をもったほうが早いと思っている若者たちに、そうでないことを教えてやりたい。こうしたプロジェクトは、銃を捨てさせるには恰好のプロジェクトのはずだから」とカルテ所長は言います。

本当は子どもたちが、そのまま正規の学校に行けるのが一番なのですが、残念ながら、財源が乏しいために、教育は1日に1時間が限度です。そのうち、訓練で作ったものを市場で売って、それを個人個人の信託基金にできれば、と夢を描いています。ジャケットの縫製を習い、市場にまでおろせるように上達したミーナは、この前までパキスタンに避難していました。「ここは女性にとってはすごくありがたい場所です。だって仕事のチャンスはあるし...それに...なんとと言っても、最高に楽しいんですもの！」彼女は飛びきりの笑顔で叫びました。

（写真：2点とも©UNICEF）

Message

アフガニスタン再建を目指す者にとっては、一步一步がチャレンジです。23年もの間、紛争、自然災害、圧政の中を生き抜いてきたアフガニスタン人ほど、これを理解している人はいません。再建を支える側にとってはときどき諦めたくくなるような事態の中でも、彼らは機会をみつけ、そこから希望を見出します。

アフガニスタンの救いは、その国民の楽観的な性格と情熱です。長年の苦しみの中で人々が疲弊しているのは確かです。でも、それは国を再建したいという人々の熱意までは奪い去ってはいけません。これを如実に表わしていたのが「バック・トゥ・スクール」キャンペーンの成功です。多くの支援により、300万人近い子どもたちが2002年の新学期を新しい文具とバッグで、迎えることができました。もちろん、集まってきた先は臨時のテントであったり、慌てて修復した建物の中でした。最初に見込まれたのは150万人。それが、いつの間にか300万人に膨れ上がったのです。特に女の子たちは、5年間禁止されていた学校への通学が可能になり、大興奮のうちに学校に戻ってきました。

逆境に打ち勝とうとした勇気ある人たちの話は跡を絶ちません。遅れを取り戻すために、冬の寒さをも物ともせず、授業を続けた先生たち。教材を遠隔地まで届けるための努力は並々ならぬものがありました。

ここにお届けするのは、誇れる成果のごく一部です。裏には表に出ない感動的な話がたくさん隠れているはずです。みなさまのご支援は、多くの大切な命を救い、未来のアフガニスタンの人材を創り出すことに成功しています。ここにみなさまのご支援に感謝し、未永いご支援をお願いしたいと思います。

ユニセフ・アフガニスタン事務所代表
シャラード・サブラ

アフガニスタン

これからの課題とユニセフが目指すこと

ご報告いたしましたように、みなさまの募金とご協力のおかげで、ユニセフはアフガニスタンにおいて効果的な支援を繰り返すことができ、大きな成果を上げることができました。

しかし、最近のニュース報道にもあるように、治安はまだまだ予断を許さない状態にあり、加えて、社会的インフラの整備不足、地理的な面での障害が大きく、残された仕事はまだたくさんあります。

帰還難民の増加、継続的な干ばつに加えて、これからの社会作りを担っていく人材が不足していることは、アフガニスタンにとっては大きな課題です。

この中で、ユニセフはこれからは、州レベルでの支援活動に力を入れ、子どもの問題に焦点をあて、成果が上がる支援を行っていきます。アフガニスタンは民族でみた場合に州単位のほうが結束を図りやすく、州を単位としてセクターを超えた総合的な活動を行うほうが、効果が上がると見られるからです。ユニセフは、ほかの国連機関、NGOのパートナーと共に、次の6つのことに力を入れて、アフガニスタンでの活動を続けて参ります。



©UNICEF/HQ01-0502/
Shehzad Noorani



©日本ユニセフ協会

子どもの家族との連絡を強化する
社会変革をもたらす中心的な場所として、
コミュニティの中の学校を見直す
女性の生存と参加を改善する

子どもが育つ環境を改善し、虐待や搾取から
保護する
能力育成を促進する
緊急事態への対応と準備をしっかりとしておく

ユニセフは、特に困難な状況にある子どもと女性の生存と発達をまもるために活動を続けます。
みなさまのご理解、ご協力をこれからもよろしくお願いいたします。

具体的目標 (抜粋)

予防接種	<ul style="list-style-type: none"> 5歳未満児600万人に対してポリオの経口接種を実施 6カ月～5歳未満の子ども500万人に対してはしかの予防接種を実施
妊産婦保健	<ul style="list-style-type: none"> 15～45歳の女性50万人に対し、破傷風ワクチン接種を3回実施する 27の州病院と5つの地域病院を再建し、緊急産科サービスを提供できるようスタッフと施設を整備する
教育	<ul style="list-style-type: none"> 400万人の子どもに学習資材を提供 学校に行っていない子どもが学校に行けるように2,000の小学校を支援する すべての小学校教師に教師用の資材を提供し、教授法についての研修を実施する UNOPS¹とのパートナーシップのもと、200の小学校を再建する 小学校をコミュニティの中心的存在にするため： <ul style="list-style-type: none"> 16,000人の先生(1校にふたり)に地雷注意喚起教育の研修を実施する 4,000の給水所(井戸)を学校に設置する(すべての学校で安全な飲み水が手に入るようになる) 1,500校にトイレを設置し、衛生教育を実施する <p><small>1 国連プロジェクト・サービス機関(UNOPS)は、国連開発計画(UNDP)の執行部局であったプロジェクト・サービス事務所が分離・独立し、国際連合の開発プロジェクトを実施する機関として、1995年に設立されました。</small></p>
栄養	<ul style="list-style-type: none"> 栄養補給プログラムの実施により、現在30万人いる栄養不良の子どもと10万人の母乳育児中の女性あるいは妊婦の栄養状態を改善する 乳幼児の栄養対策とガイドラインを全国的に周知する ヨード添加塩の製造を支援するために8つのヨード添加塩工場を設置
子どもの保護	<ul style="list-style-type: none"> 少年兵、ストリート・チルドレン、10代の女の子を対象にした学習センターをNGOと協働で設置する 「ハイリスク」地域に「子どもに優しい場所」を設置する 2002年に行った心理社会的調査をもとに、アフガニスタンの子どもたちが「脅威」だと感じている搾取や虐待からの保護を促進する
計画立案、モニタリング、評価	<ul style="list-style-type: none"> 内務省を通し、1歳未満の子どもを全員登録する(全国予防接種データと同じようなキャンペーン手法を利用する) MICS(複数指数クラスター調査)を実施して子どもの実態を把握、3カ年国家開発計画において、子どものための計画立案とモニタリングを向上させる

募金協力方法

アフガニスタン復興募金は現在も右記口座にて受け付けております。みなさまのご理解、ご協力を引き続きお願いいたします。

郵便振替：00190-5-31000

(通信欄に「アフガニスタン」と明記してください)



(財)日本ユニセフ協会(ユニセフ日本委員会)

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL: 03-5789-2012

www.unicef.or.jp